月報
岡崎の教育

平成16年10月1日
10月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
愛知県立岡崎工業高等学校長
市川　繁富氏
この人に聞く …… 2
株式会社デンソー
電機特定開発室部長
今枝　誠氏
羅針盤 …… 2
六ッ美西部小学校長　渡邊　勝英
ふれあい …… 3
根石小　林　俊樹
矢作中　小林　憲
特集 …… 4
岡崎の三大祭
～能見神明宮大祭・菅生天王祭・岡崎天満宮例大祭～
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー …… 8
竜谷少年赤十字団設置発団式（昭和8年）
この本を …… 8

教育随想

ものづくり教育・人づくり教育

愛知県立岡崎工業高等学校長
市川　繁富　氏

岡工の名で親しまれている本校は、明治四十五年に三河地区唯一の工業教育機関「私立愛知工芸学校」として創立された。その後、幾多の歴史的変遷を経て、多くの有為な人材を輩出し、昭和二十三年の学制改革によって愛知県立岡崎工業高等学校と改称され、今年創立九十二周年を迎えている。

創立以来、「仁・義・礼・智・信」の人間性を重視し、「誠実・勤勉・健康・実力主義」を校訓として「ものづくり教育・人づくり教育」が行われてきた。昭和五十年頃から高学歴・普通科志向の風潮の中で存在意義を失する危機もあった。しかし、トヨタ自動車を中心とする地元産業界からのものづくり技能教育への期待や、政府四省庁からの「若者自立・挑戦プラン」の提唱によって工業高校の存在意義が再認識されつつある。本校では、この不況下においても求人倍率が三倍を下回ったことはない。また就職後三年間の離職率も五％弱と低い数値を維持している。

今年の夏、機械科四十九名の生徒が国家試験三級技能士に挑戦し、三十七名が合格した。合格した二年生の生徒は三年で二級に挑戦する予定である。生徒は、作品を十数個繰り返し作る。猛特訓の後、最初五時間程度かかっていた時間を一時間三十分までに短縮する。そして、机上の論理では得られない「ものづくり技術・技能」を習得し、自信に満ちた青年に変わる。私たち教員は指導するたびに若者の成長と限りない能力に感動する。

今日の日本の教育は、知識偏重教育である。その結果、就職する若者と産業界が求める人材間に大きなギャップが生じている。この問題を解決するために、文部科学省からキャリア教育推進の施策が提案されている。小学校から高校まで体験を重視し、試行錯誤しながら進める教育方法を構築し、実施することこそ大切である。

（いちかわ　しげとみ）

この人に聞く

ふるさとシリーズ

学校教育への期待

株式会社デンソー
電機特定開発室部長
今枝　誠　氏

今や車になくてはならない存在となりつつある安全な制御システムのABS、VSC（横滑り防止システム）。それを開発した今枝氏は、実験のためには会社に寝袋で寝泊りし、売り込みのためには世界中を飛び回る開発者であり、企業人である。

若々しく気さくな感じの氏に、ご自身の経験を踏まえ、学校に必要と感じられることをうかがった。

「わたしが会社に入った当時は、欧米に追い付き追い越せという時代でした。しかし、日本がトップとなった今、いちばん求められるのは創造力です。そのために、教科書を暗記するだけでなく、実体験をさせながら物事の本質を教え、自分で考える力をつけさせてほしい。」

さらに続けて、

「心のもち方として、人と協力しなければ、大きな仕事は成せません。チームを組み、お互いの良いところを発揮しながら連携していくことが大事です。そのために、学校では、人とのつながりを生かす人間性を育てるべく、感謝・思いやり・自立の心をもたせることが必要です。」

と話してくださった。

多忙な毎日が続いた今枝氏は、二年前に体調を崩されたという。その教訓として、

「仕事を成功させるには、たゆまぬ努力が必要です。このための基本は、身体の健康管理です。学校において、部活動を通じての体力向上も必要ですが、さらに睡眠・栄養といった幅広い観点で、健康の自己管理についても教えていただけたらと思います。」

その時の入院を転機として、会社一辺倒ではなく、幅広い視野で物事を見つめられるようになったそうだ。

自宅には、小学校から高校までの教科書が並んでいる。学校での学びが、会社でも系統的にとらえられるようにと、「実践創造教育プログラム」を五年間でまとめられる予定だという。仕事はもちろん、大学院で教鞭（きょうべん）をとるかたわら、会社や社会へ貢献したいという強い思いに動かされたからだという。

人と接することが好き。「高い目標を掲げ、集中して取り組む」仕事も好き。そして何より、自分の人生を楽しむことが大好き。そんな人柄が、今枝氏の穏やかな笑顔に象徴されていた。

（氏　　名　いまえだ　まこと
生年月日　昭和二十四年四月六日
住　　所　滝町字芳殿三四八）

一人一人が輝くための取組

六ッ美西部小学校長　**渡邊　勝英**

「オ・ハ・ヨ・ウ。」

毎朝、職員室にいる先生と元気なあいさつをかわす特殊学級のA君。やや照れながら人なつっこい表情で、私たちを見つめる。

担任の記録を読むと、一人一人の子の実態が、まるっきり違っていることがよくわかる。その指導の大変さや苦悩の大きさが心をしめつける。予想が大きくはずれたり、思わないことに興味関心を持って活動したりすることに驚く。こうなると一瞬一瞬、子供を見のがさない観察する眼が必要となる。つまり、先生の眼が生きているからこそ、きめ細かな指導ができると感謝している。

さて、昨年三月、「特殊教育から特別支援教育への転換」が文部科学省の調査研究協力者会議により提言された。その後早くも一年半近くと

ふれあい

その時奇跡が起きた

根石小　林　俊樹

「先生、もういいじゃん。」

長縄跳びの練習中、A男が口にした言葉だ。本校には縄跳び種目に挑戦する月間があり、最高記録は根石記録として残されることになっている。

縄跳び月間が始まりクラスで長縄の練習を開始した。練習を重ねるうちに早々と根石記録を超え、四十回跳ぶことに成功した。本当の挑戦はここからであった。今の記録に満足せずに時間がある限り一回でも多く跳び、最後まで全力で取り組ませたいと考え、子供たちを励まし続けた。

ところが、毎日練習しても三十回前後で止まっていっこうに記録は伸びない。この状況に嫌気がさしたA男は、練習に身が入らなくなってしまった。そこで、クラスで記録を伸ばす方法を話し合った。しかし四十回を超えることはできなかった。

縄跳び月間終了前日、わたしは子供たちに最後のメッセージを贈った。「全員の心が一つになれば必ず奇跡は起こる。みんならできる。」

A男は静かにうなずいていた。

いよいよ当日。そこには、進んでかけ声をかけるA男の姿があった。そして五十九回、奇跡は起こった。全員で手を取り合って喜んだ。

「先生、おれ鳥肌が立ったよ。」

A男の目にキラリと光るものがあった。

宝物

矢作中　小林　憲

「先生、三年間ありがとう。先生が教えてくれた『よいところさがし』を続けていくよ。わたしのまわりにはすばらしい子がたくさんいるよ。これはわたしの一生の宝だよ。そして宝物の見つけ方を教えてくれた先生、本当にありがとう。」

卒業していったA子の言葉の中にある「よいところさがし」とは、人の悪いところには目を向けず、よいところのみを見つけながら接していくことである。わたし自身、このような人間でありたいと思いながら、なかなか思うように実行できなかった。A子は、わたしが自分自身に言い聞かせながら生徒に伝えてきたことを感じて、その生き方を実践し、最高の宝物を得て今を生きているのである。

わたしは、多くの人に支えられてここまでこられた。今そのことにとても感謝している。そして、自分の宝物と言えば、それは今まで出会えた人たちすべてである。これからも宝物をもっと増やせるように、生徒たち、そしてこれから出会う人たちとともに、「よいところさがし」の旅を続けていきたい。

なるが、今、通常学級にも、特別な支援を必要とするLDやADHDや高機能自閉症の子供たちが何人か在籍している。特別支援教育は、特別な教育ではない。すべての子供たちに通じる個性に応じた教育である。子供に関わる者全員が協力して、子供たち一人一人の障害の特性等に応じた支援教育を進めることや、学校生活が子供主体の活動となるように子供それぞれの立場に立って、学校教育を見なおす必要性がある。

通常学級では、「特別支援教育」と大きな看板をつけなくても、それぞれの先生が教えることの工夫を意識しないで、自然な形でサポートしていることが多い。しかし、そのことを意識して説明できるようになればお互いの「教える工夫」の財産が増えていくのではないか。そして、たくさんの工夫を集めれば「軽度発達障害」の子供たちへの指導のあり方や対応の手がかりとなり、特別支援教育も一歩前進すると思う。

支援計画や授業の質的向上を図るためにも効果的・効率的な特別支援教育のシステムの構築を求めたい。

個々を見つめ、個々に応じた指導法を探って支援をし、一人一人の可能性を引き出す実践が望まれる。

岡崎の三大祭

～能見神明宮大祭・菅生天王祭・岡崎天満宮例大祭～

▲ 神明宮境内を練り歩く子供獅子

あちらこちらでにぎやかに祭囃子が聞こえる季節になった。市内には、山車や花火などを奉納する「岡崎の三大祭」と言われる大祭がある。

春、「神明さん」と呼ばれ、親しまれている能見神明宮の大祭が行われる。氏子が各町の山車を曳きまわし、独自のお囃子や子供の舞いを披露する。全八台の山車はまさに豪華絢爛である。今年は特に、城北中の生徒によるオーケストラ演奏も加わり、祭りを盛り上げた。

夏、菅生天王社（現菅生神社）の祭りが行われる。以前は葦に疫病神をつけて菅生川に流し、厄病を追い払う祭りであったという。文政五年（一八二二年）の祭りから鉾船が出され、金魚花火も奉納されて、にぎやかな祭りに変化した。現在は、岡崎市の「夏祭り花火大会」と合同で行われるようになり、市内外から大勢の観光客が訪れている。余興としての「よさこいソーラン」に小中学生も工夫を凝らした踊りで参加している。

秋、岡崎天満宮の例大祭が行われる。各町からの長持ちや子供神輿の練りこみで祭りは始まる。神様に日頃の感謝を表す行事の一つとして、弓道の試合や子供相撲大会が奉納されている。小学生の巫女の舞いも賑々しく披露される。

春から秋を華やかに彩る「岡崎の三大祭」は、各神社と氏子の努力で守られている。今も脈々と引き継がれている伝統と、子供から大人まで年代を超えた多くの人々の熱い思いを感じた。

◀ 夏祭り花火大会

▼ 菅生天王社祭礼図（大正11年刊）

▲ 岡崎天満宮　長持ち練りこみ

岡崎天満宮例大祭

▲ 子供相撲大会

▲ 巫女の舞い

▲ 弓道奉納試合

能見神明宮大祭

▲ 神明宮境内でのオーケストラ演奏（城北中）

▲ 山車でのお囃子

《能見神明宮大祭》

5月第2土・日曜日	神輿渡御（とぎょ）　山車の練りこみ 巫女の舞い

《菅生天王祭》

7月19日・20日	宵宮祭（よいみや）　巫女の舞い　奉納花火
8月第1土曜日	鉾船神事　奉納花火

《岡崎天満宮例大祭》

9月23日～26日	長持ち練りこみ　子供相撲大会 弓道奉納試合　巫女の舞い

菅生天王祭

▲ よさこいソーラン（北中）

▲ 鉾船神事（天王丸・菅生丸）

● 教育最新情報

○特殊教育から特別支援教育への移行

最近、テレビ番組で軽度発達障害のある主人公が取り上げられたり、新聞にアスペルガー症候群の特集が組まれたりしている。教育界では、特別支援教育コーディネーターを設置し、研修会を開催するなど、従来の特殊教育の枠を越える内容や体制に関する用語が頻繁に登場するようになった。ここではそのような特別支援教育にかかわるキーワードについて解説をしたい。

■特別支援教育コーディネーター

役割は、学校に在籍する特別な教育的配慮を有する子供・保護者、学校・教師、これらとかかわりのある専門機関との連携を図り、学校現場の実情に即した具体的な支援プランを立てることである。

直接的には、保護者との相談活動、校内支援体制の組織化、担当教員への支援・助言、外部専門機関（医療・相談）への依頼及び、連絡調整などを行う。

今年度、本市では、県の講習会を受け、学校の現状に即した研修会を五月・十月・二月の三回実施する。

■個別の指導計画

教育・福祉・医療を統合した横のつながりを持つものに「個別の教育支援計画」があるが、この中に学校教育全般にかかわる部分を受け持つ「個別の指導計画」がある。

現在、養護学校では、指導の一部について「個別の指導計画」の立案・実施の義務が課せられている。

障害児教育の出発点は、個別の計画を作って、個別の指導にあたることといっても過言でない。

従来より、通常学校、通常学級・特殊学級でも、担当者は個々の実態に合わせ、指導法の工夫を重ねてきたが、特別支援教育への移行を見据えると、「個別の指導計画」を作成することが、教育支援体制作りには欠かせない。

ちなみに、「個別の指導計画」には、次の二点が大切な要素として含まれる。まず一つは、保護者の願いを取り込むという「連携」である。もう一つは、子供への教育効果を的確に評価し、指導法やその手立てを検討し、計画を再立案するという「フィードバック」である。

市の特殊教育部では、現在、導入マニュアルを作成中であり、一部試案としてホームページに公開している。ダウンロードして、各校の実情に合わせて活用し、事例を積み上げて、より良い指導計画を構築していきたいものである。

● 少年自然の家だより

○野外活動指導者講習会

本施設では、教師と子供とで営む野外活動を目標にしているため、カウンセラーは配置していない。従って、毎年、野外活動委員会が中心となって野外活動の実技講習会を行っている。

本年度は、レクリエーション指導を始め、炊飯活動、オリエンテーリング、キャンプファイヤー、カヌー、落ち葉スキーなど実技を実習した。中でも、コンパスを使った「ほたる狩りオリエンテーリング」や自然とのふれあいを重視した「ツリーラリー」は楽しい経験であった。

本講習会は二十九回を数え、本年度の四十名を加え、一四二五名が受講済である。

今後も、野外活動における教師の指導力向上に努めたい。

○すぶちワイルドキャンプ

自然の家主催事業の中で最も人気がある「すぶちワイルドキャンプ」を八月六日から二泊三日で実施した。

小学四年生から中学三年生までの児童生徒五十八名が参加して盛大に行われた。

野外炊飯、落ち葉スキー、キャンプファイヤーなどにおいては、毎回参加している子供も多く、大人もかなわないほどの熟練した能力を身に付けた子もいる。

また、毎年テーマを決めて自然の中での体験活動を楽しむようにしている。本年度は、野外での「パンづくり」や、「うどん打ち」などに挑戦した。子供たちは、できたてのパンやうどんを食べながら会話も楽しんでいた。

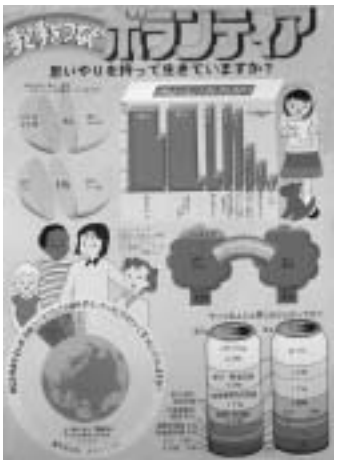
退村式後、再会を約束して名残惜しそうに家路につく子供たちの姿が印象的であった。

▲ すぶちワイルドキャンプ
ーおいしく焼けたかなー

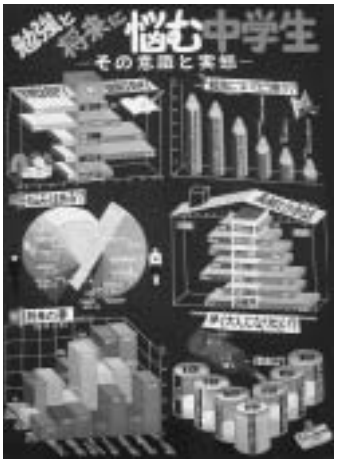
●表　彰

◆第十八回岡崎市中学生の主張コンクール
優秀賞
六ッ美北中　三年　林　祐太
城北中　三年　市川　貴咲
北　中　三年　原田　まみ
附属中　三年　岩瀬　恵子

◆第二十九回岡崎市小中学校児童生徒統計グラフコンクール
●市長賞
竜美丘小　六年　鈴井美奈子
竜海中　三年　見並　克俊
北　中　三年　嶺田・尾崎・山口
●市議会議長賞
竜美丘小　五年　杉浦　加奈
竜海中　二年　植田　美咲
山中小　六年　内田・長坂
●教育委員会賞
連尺小　四年　都築沙也加
葵　中　一年　今岡　美晴
北　中　二年　細井・中嶋
藤田・工藤
●学校賞　竜美丘小学校
竜海中学校



▲統計グラフコンクール
（市長賞：竜美丘小6年
鈴井美奈子）



▲統計グラフコンクール
（市長賞：竜海中3年
見並　克俊）

◆平成十六年度少年の主張愛知県大会
奨励賞　河合中　三年　杉田玲菜

◆第五回小中高全国空手道選手権大会
第三位　根石小　二年　野田唯人

◆第四十六回岡崎市中学生英語スピーチフェスティバル
入賞
柴田安希（美川）・成瀬勇麻（葵）
松田浩佳（附属）・柴田萌衣（南）
杉浦あがさ（南）・林　知世（六ッ美北）
森下園子（東海）・大井笑理（新香山）
伊藤慶美（葵）・河西由香（岩津）

◆「子とともに　ゆう&ゆう」第三十九回作文コンクール
最優秀賞　美川中　一年　藤田佳子

◆第四十四回愛知県合唱コンクール
金　賞　六ッ美北中学校
銀　賞　矢作北中学校
銅　賞　南　中　学　校

◆NHK全国学校音楽コンクール東海北陸ブロックコンクール
銅　賞　矢作南小学校
※愛知県コンクールでは金賞

◆第五十九回東海吹奏楽コンクール中学A編成の部
金　賞　竜　海　中　学　校
銀　賞　矢　作　中　学　校

◆第二十回学習ソフトウエアーコンクール
文部科学大臣奨励賞
岡崎市情報教育推進委員会

◆道路の美化活動
国土交通大臣表彰　山中小学校
中部地方整備局長表彰　東海中学校

◆第二十四回ボランティア活動表彰
県知事賞　恵　田　小　学　校

◆平成十六年度学校関係緑化コンクール
●学校環境緑化の部
県教育委員会賞　小豆坂小学校
県緑化推進委員会会長賞　岡崎小学校
●学校林等活動の部
特選　秦　梨　小　学　校

◆全国中学校体育大会入賞者
●陸上競技
男子3000M
七位　藤井　延幸（東海）
男子走幅跳
四位　西　航司（甲山）
●男子水泳競技
100M自由形
八位　柳　雄人（竜海）
200M個人メドレー
八位　筒井　和也（岩津）
400Mリレー
三位　嶋・魯・中沢・畠（矢作北）

出場者
●陸上競技
女子走高跳
稲葉生恭子（東海）
●水泳競技
男子50M自由形
柳　雄人（竜海）
男子400M個人メドレー
筒井　和也（岩津）
女子100Mバタフライ
岩下なつみ（城北）
女子200M自由形
岩下なつみ（城北）
男子400MメドレーR
嶋・魯・中沢・山本（矢作北）
●相撲
個人戦　青山　貴昭（美川）
●ソフトテニス　女子
個人戦　岩瀬　亜巳（城北）
松井　美穂（城北）
●バレーボール　男子
永井・石橋・佐々木・森
小松・酒井・戸軽・村瀬
山口・中西・水野・西村
三好　（矢作）
古川・渡部・浅井・斉藤
柴田・都築・荻野・佐藤
市川（友）・山中・市川（勝）
三好・尾崎　（北）

●新しいALT着任

七月に任期を終えたALTのディヴィッド・マーティン先生（ニュージーランド出身）、パール・オオミヤ先生（アメリカ出身）の代わりに、新しく二名の先生が着任した。
●ファルーク・ラジャ
（イギリス出身）
●マーク・マクドナルド
（イギリス出身）
継続の五名の先生（ロジャー、マリアン、ローレン、ジョゼフ、ジェームズ）同様に、活躍を期待する。
どの先生方も明るい性格で日常会話程度は日本語で話ができる。中には、とても流暢（りゅうちょう）な日本語を話す先生もいるので、小学校からも積極的に要請してほしい。

▲新ALTのファルーク氏（左）とマーク氏（右）

フォトヒストリー
岡崎の教育

竜谷少年赤十字団設置発団式
（昭和８年）

写真提供：竜谷小学校

中央で第十代校長が団旗を受け取る。小学校五・六年生児童が一同に集まり、きちんと整列している様子からも式の大切さがうかがわれる。

少年赤十字は、小学校五・六年生を対象に一校に一団体、校長を団長とした組織であった。竜谷少年赤十字は、昭和八年に結団された。その活動は、博愛精神の発揚、保健衛生などで、戦中には慰問金品を贈ることもしたそうである。

昭和五十四年、市内の全小中学校が青少年赤十字に加盟し、今もその精神は受け継がれている。

・カット　東海中　土井誠司

オアシス

おととしから二年連続で、不登校児童・生徒数は前年度を下回ったそうだ。学校基本調査の結果からわかるのだが、まだそれでも十二万六千人いるという。特効薬があるわけではないが、教師が相談に乗ったり、家庭訪問したりする中で、立ち直りを見せる子がいるのも事実だ。

しいたけ、山栗、柿、アケビ。山里に今年も秋の味覚が登場した。

今やスーパーマーケットの食料品売り場には、季節を問わず豊かな食材が並ぶ。しかし、何事も旬が一番である。

教育においても一人一人の子供を見つめ、そのつど旬を見逃さないようにしたい。

朝の読書を行っている学校が増えてきている。一日のはじめに本を読むことで、心を落ち着かせてその日を過ごすことができる。毎日、読書に取り組むことにより本が好きになったという子供も多い。読書を通して様々な知識を得て、創造力豊かな人間に育ってほしい。

水面に百八個の提灯が映る。その灯りをゆらして、菅生神社の鉾船が祭りの出番を待っている。「五万石でも岡崎さまは、お城下まで船が着く」の木遣り唄を聞きながら、神主の列が川辺に向かう。今年も、私たちの町が平和でありますようにと願ってやまない。

この本を

＊隗（かい）よりはじめよ　前田又兵衛
小学館　￥1400

＊自分さがし　須永　博士
七賢出版　￥1500

＊教えの復権をめざす理科授業　川上　昭吾
東洋館出版社　￥2000

＊「多動性障害」児　榊原　洋一
講談社　￥700

＊コマのつぶやき　駒木根文幸
フラワータスクフォース　￥1600

「つぶやき」と控え目なタイトルだが，約50年間にわたる著者の豊富な教育実践と体験を踏まえて，戦後から半世紀余の教育の根源にかかわる「あたま」と「こころ」の育成にスポットを当てた６部構成からなっている。

子供たちに対する深い愛情，親や教師への強い期待など，豊かな体験と著者ならではの教育哲学に裏付けられた金言の数々に，強く胸をうたれるものがある。